

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

- ・診療ガイドライン改訂：2021年に改定版が発行された。最新論文を解析することで、学術的に重要な項目を抽出し、高度で安全確実な良質な医療の提供に結び付く。
- ・形成外科学会データベースの解析：2010年からの約600施設、年間約40万件の手術データの蓄積と解析により、疾患の疫学・手術内容等の情報提供と学術的研究に応用することが可能。2017年からは、National Clinical Databaseと連携を行っている。
- ・形成外科領域の分野指導医制度の設立：2011年～2021年にかけて、皮膚腫瘍外科分野指導医、小児形成外科分野指導医、再建・マイクロサージャリーサージャリー分野指導医、レーザー分野指導医の制度を設立した。このことにより更なる学術的専門家の育成と、高度で適切な医療の提供が可能になる。
- ・サブスペシャリティの専門家を育成：形成外科領域における高度な学術的サブスペシャリティ専門家を育成するために、日本レーザー医学会、日本手外科学会、日本熱傷学会、日本美容外科学会(JSAPS)と連携し、二階建ての制度の確立を目指している。
- ・CST (Cadaver surgical training) の導入：2020年から各大学で手術治療の開発ならびに教育的目的で、全国でCSTセミナーを開始した。
- ・自家脂肪注入に対するエビデンスの構築・ガイドライン作成：形成外科領域で脂肪注入は、患者に恩恵を及ぼす技術であり学術的かつ安全確実な脂肪注入手技の発展を目指している。
- ・英文機関誌の発行：従前の日本語学会誌に加え、2022年より英文機関誌の発刊を開始した。これにより、国内医師の英語対応力や国際発信力のさらなる向上が期待できる。

b. 当該領域における国際的な役割

- ・米国形成外科学会 (ASPS) との連携：日本の高度な技術や研究に関する教育コンテンツをASPSに供給することで、日本外の広い範囲でより良い形成外科医療の提供を目指している。
- ・各国の形成外科とMOUの締結：各国の形成外科学会と交流することで、相互の医療の発展に貢献することを目指している。現在まで4か国と締結の実績があり、今後増やす予定である。
- ・アジア形成外科連盟 (APRAS) が日本を含めて9カ国で設立され、日形会が全面的にバックアップを行なっている。
- ・英文機関誌の発行：従前の日本語学会誌に加え、2022年より英文機関誌の発刊を開始した。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

- ・専門医制度の確立：専門技術と教育指導が可能な医師育成により、安全で高度な医療の提供。
- ・創傷治療に関する正しい情報を国民に提供：キズ・キズあとに関係するキャンペーン等をホームページ、YouTubeの利用や、学校保健学会、医師会、小児保健協会等と連携して情報発信することで、国民が適切な医療をその医療圏で提供できるようにする。
- ・医療安全委員会活動：日本医学会連合や厚労省関係、日本医療安全機構などと情報共有と患者のため

に会員に広く情報提供。

- ・キャリア支援委員会を設置し、教育講演やシンポジウム、キャリア相談会を実施し、女性だけのみならず男性形成外科医も含めたより良い職場の環境構築や多様なキャリアパスを提供できるサポートを行っている。
- ・適切な形成外科診療を全国に普及する目的で全大学病院に形成外科設置要望を提出している。
- ・美容医療：関連学会である一般社団法人日本美容外科学会と協力し、確実に安全な美容技術を提供するための活動をしている。具体的には、美容医療に関する情報収集と消費庁・厚労省との連携、ホームページ上での患者への注意喚起。未承認材料・機器・薬剤の安全性検討など。「美容医療診療指針（令和3年度改訂版）」は日本の美容診療部門における初めての診療指針を示した。

d.学会運営上留意している点

- ・学会の目的を常に明確に会員に発信
- ・全国どこでも適切な形成外科による医療が提供できるような活動の継続。
- ・安全で確実な医療の提供のために、医療安全委員会を中心に情報収集と発信。
- ・診療技術の維持向上のために、専門医制度をはじめ必要な委員会を設け情報収集し、さらに専門家による講演や特別企画、教育企画などで会員への提供。
- ・診療技術の発展のため、DBやガイドラインを利用して学会や会員主導の研究を促進。
- ・多様性・国際性に富む次世代人材育成のために、国際的な活動を積極的に展開。
- ・幅広い知識、技術を身に付けた会員育成のために、他科との連携を強化。
- ・「男女共同参画社会基本法」の趣旨に取り組み、女性議員の登用。

II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい。

- ・サブスペシャリティの専門家育成：日本熱傷学会、日本手外科学会、日本レーザー医学会、（日本美容外科学会：現在、日本医学会の分科会ではない）
- ・乳がん切除・再建領域の発展：日本乳癌学会
- ・四肢・体幹再建領域の発展：日本整形外科学会、日本手外科学会
- ・がんの切除再建領域の発展、再建ガイドラインの共有：日本癌治療学会
- ・熱傷診療の発展、熱傷診療ガイドラインの共有：日本熱傷学会
- ・皮膚悪性腫瘍・美容医療診療に関する協力：日本皮膚科学会
- ・再生医療の発展：日本再生医療学会
- ・リンパ浮腫治療の発展：日本脈管学会、日本婦人科腫瘍学会、日本乳癌学会など
- ・性同一性障害領域治療の発展：日本精神神経学会、日本産科婦人科学会、日本泌尿器科学会
- ・創傷治療の発展：日本血管外科学会、日本内分泌学会など
- ・内視鏡及びロボット手術支援の発展：日本内視鏡外科学会
- ・小児外科系疾患の治療の発展を目的：日本小児期外科系関連学会